

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

***大正10年11月1日、大正11年11月1日付文部省職員録—その1—**

2013年1月23日～24日に2日間、水沢VLBI観測所に国立天文台博物館構想の話し合いに出かけた。アーカイブ室の発展形態として国立天文台博物館構想を進めている一環で、水沢VLBI観測所もこの構想の一員になることが検討されており、その打ち合わせに行った。その際、木村記念館、奥州宇宙遊学館（木造の旧本館）、旧図書室などを見せていただいた。水沢VLBI観測所の前身である緯度観測所は、国立天文台の中で現存する一番古い観測所の一つであり、1899年（明治32年）に発足している。さすがに100年を超える歴史ある観測所で貴重な歴史的観測機器類、資料などが山とある。旧図書室の建物は耐震化工事も終わっており、国立天文台博物館水沢分館としてすぐにも使用できる建物である。この建物の資料のうち、今回紹介するものは大正10年(写真1)、11年(写真2)の文部省職員録である。特にこの2冊を選んだのは、この間に東京天文台が理学部付属から、大学附置に変わっていたからである。

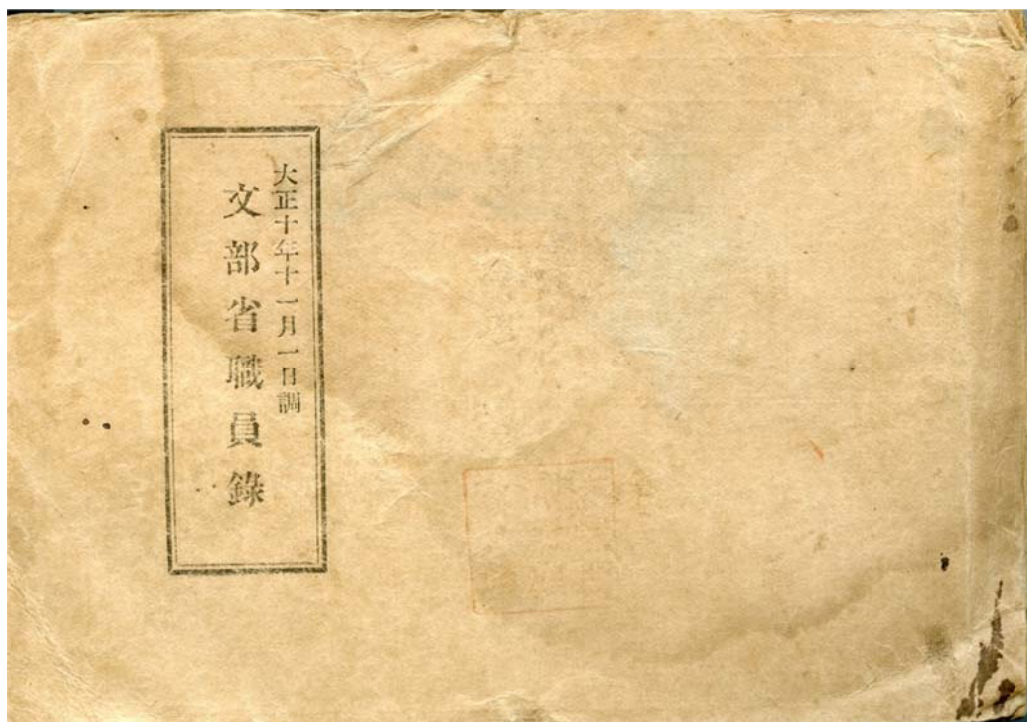


写真1 大正10年の文部省職員録

大正10年の職員録の目次のページが写真3である。東京帝国大学の項には、法学部、医学部、工学部、文学部、理学部、農学部、経済学部、伝染病研究所、航空研究所が名前を連ねている。そして理学部の項を見ると付属施設として、附属東京天文台、附属臨海実験所附属植物園、附属植物園日光分園が掲載されている。



写真2 大正11年の文部省職員録

理學部	一三三
農學部	一四〇
經濟學部	一五一
傳染病研究所	一五四
航空研究所	一六〇
京都帝國大學	一六三
東京帝國大學	一八八
法學部	九六
醫學部	一〇〇
工學部	一一四
文學部	一二五

写真3 大正10年職員録の東京帝国大学目次

そして、理学部の中に附属東京天文台が出てくる（写真4）。当時の台長は2代目の平山信である、理学部教授の中に、平山信、長岡半太郎、寺田虎彦、平山清次、助教授の

中に早乙女清房が登場し、東京天文台の項に登場する名簿が写真4である。

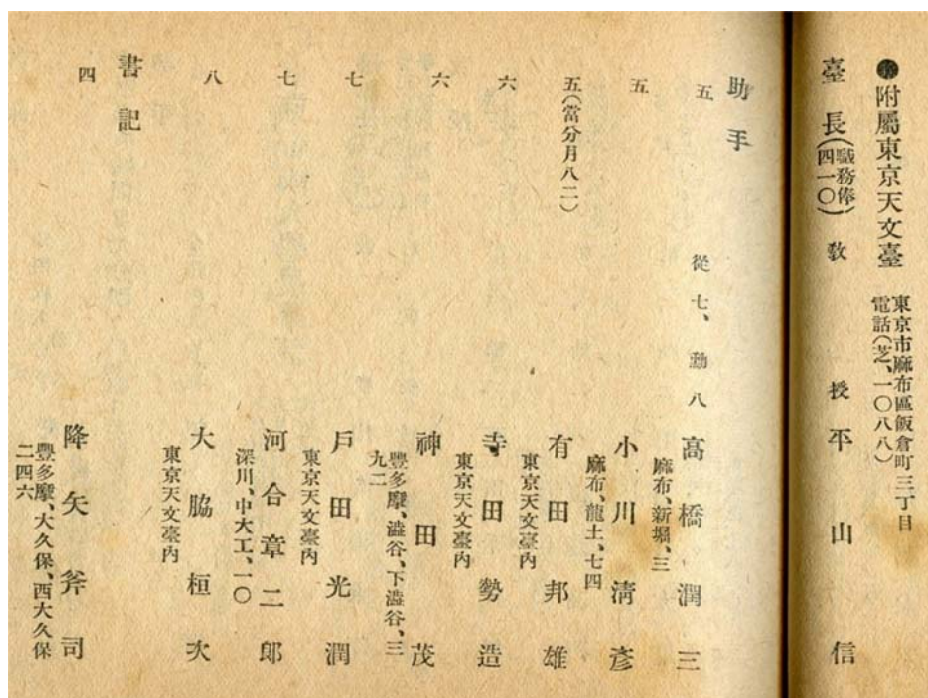


写真4 大正10年の東京天文台の名簿

ちなみに緯度観測所が登場する最後の目次のページが写真5である。



写真6 緯度観測所が登場する目次の最後のページ

緯度観測所は文部省職員録の最後から 2 番目であり、最後は全国の師範学校長が名前を連ねている。目次の最後の項目は官等俸給表となっているが、そのページは破られていて存在しない。大正 11 年の職員録にはあるので乞うご期待！

子の職員録の第 1 ページに登場する文部大臣、次官、大臣官房などが写真 7 である。

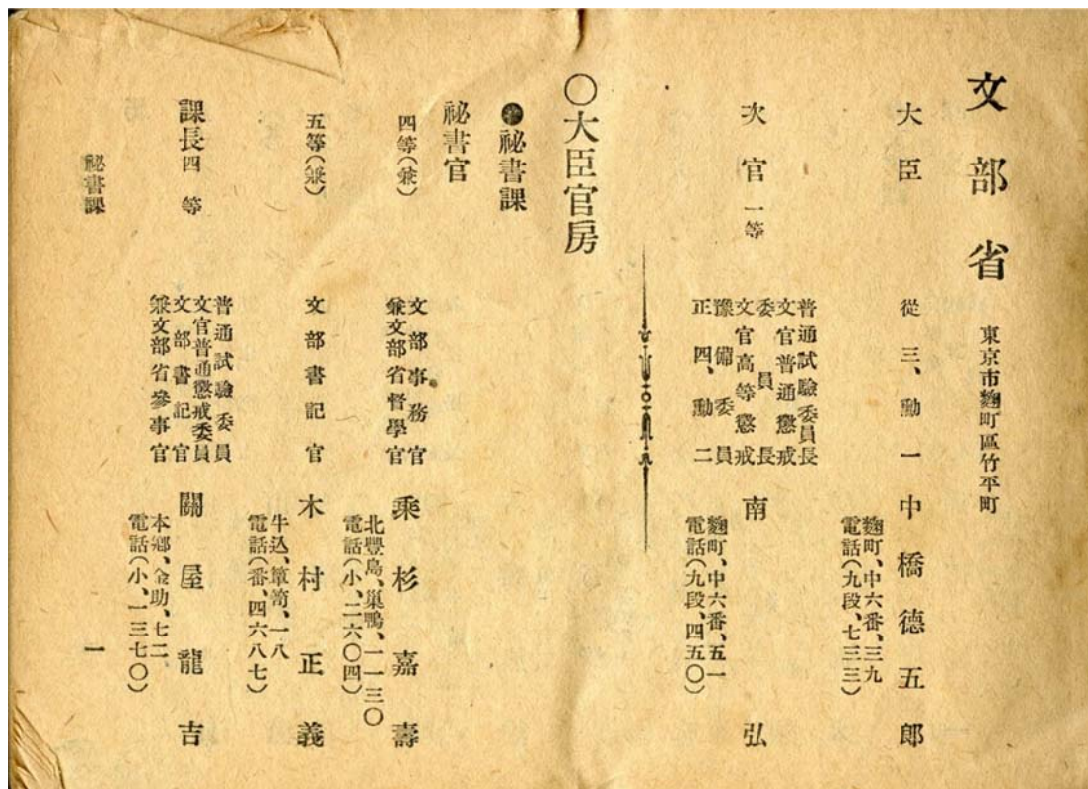


写真 7 文部省職員録第 1 ページ 文部大臣など

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp